

我が校の歩み

長崎県島原市立第三小学校長
梅林 次生

平成8年2月1日に加藤幸次先生をお招きして、先生のご講演ご指導を仰ぐ機会ができました。これは、個性化教育連盟の皆様方のお力添えと、加藤先生の並々ならぬご厚意の賜と感謝しております。

本校はTTの研究を始めて、わずか2年を経過しただけで、何の成果もなく、やっとスタートに着いた段階と言える。それに、本校は昭和2年に建設された鉄筋コンクリートの頑丈な建物で、まったく機能性を欠いた校舎だ。

現実には、クラスの子どもの間にある「学力差」や「興味・関心の差」や「生活経験差」を考慮した授業を構築して、指導法の改善を図らなければならない。という思いを一にして、空き教室を有効に活用することで、「指導の個別化」「学習の個性化」に応ずることはできないかと考え、TTの研究に取り組んだ。

ところが、県教委の教職員課から、指導法の改善のための教員の位置づけが不明確なために時数もあやふやである。どの学年のどの教科をだれが指導するかきちんとせよという指導を受けて、全職員でTTに取り組むという本来の研究が危機にさらされた。教職員課と粘り強く交渉し、やっと全職員がTTに取り組んでいることの意味を理解して頂き安心してTTの研究を開始した。

日本の学校の大半は本校のような校舎であろうと思う。こういう学校であっても、TTの授業の良さを取り入れていくことができることを証明するためにも、色々と摸索しながら実践を重ねてきた。その結果次のようなことを集約した。

- ・その教科にふさわしいTTの授業を考察していけば、学習内容を確実に身につけさせることができる。
- ・教師一人一人にも得意の分野、年齢の違いな

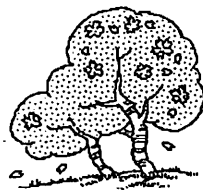
ど様々な特性があることから、専科担任と学級担任の連携を密にして、指導体制を工夫することによって、より指導の効果を高めることができる。(本校は専科担任5人)

- ・教師とボランティア、教師と保護者等々、指導体制の柔軟化、多様化によって、児童の興味関心を高めることができる。
- ・コンピュータを利用したTTによってより楽しい授業が工夫できる。

これからもっと研究していかなければならないことは、加藤先生のご講演の中で話された、クラスの子どもの間にある「学力差」「学習時間差」「学習適正差」を考慮した「わかる授業」をどのように計画し、実施し、評価していくべきかという課題。それに私たちが求める基礎基本とは何か。それは、「指導の個別化」という概念と「学習の個性化」という概念のバランスを学校の教育課程の中でどう確立していくかという課題。

もう一つは、「個性を生かす教育」をといひながら、実際は「個性」についての教師の受けとめ方がバラバラになっている現実を直視し、個性観の確立を図る必要がある。

以上、浅学非才の身でとりとめもないことを記して紙面を汚してしまいました。遅発の学校ですが、個性化教育連盟の一員として、これからも研修の機会を与えて下さることを願っています。



個性化研究発表会報告

今年度も秋から冬にかけて、全国各地のオープンスクールで個性化 育研究発表会が実施されました。その中から事務局員たちが参加したいくつかを報告します。少しでも会場の熱気が会員のみなさまに伝われば幸いです。

東京都目黒区立宮前小学校

1月23日(火)

「自ら学ぶ児童の育成」をめざし、オープンスペースを生かした個別化・個性化教育の実践に取り組んで10年。研究内容は年々変わってきているものの、児童の気づきを大切に、「待つ」指導を重視して主体的な生活・学習態度の定着をめざしていることは変わっていません。そして、この10年間の実践は着実に成果をあげてきているようです。

この日、宮前の特色ある教育活動の3本柱である「総合学習」「のびっこ」学習「週間プログラム学習」の活動場が公開されました。

宮前の総合学習の注目すべきところは、低・中・高学年それぞれの発達段階に合わせて全学年で実施しているところです。

週間プログラム学習では、子ども一人一人に応じた評価と支援の充実を感じました。

「のびっこ」学習は様々な教育事情から今年全面修正されたようですが、そこにも多くの工夫のあとがみられました。

研究紀要もすばらしいものでした。10年間の研究の流れ、個別化・個性化教育との関連、3本の柱の特色ある学習について分かり易く書かれています。今までの教育を見直し今後の実践に生かしていく上でも、他校の先生方が参考にする上でも役立つのではないのでしょうか。

自分の実践にどう生かしているかと夢をもたせてもらえたような一時でした。

(五十子)

佐賀県鹿島市立明倫小学校

1月26日(金)

6・7・8年度、県、市の「学力向上推進モデル校(算数)」として委託を受け、本年度は2年次の自主発表。5年度よりTT加配。

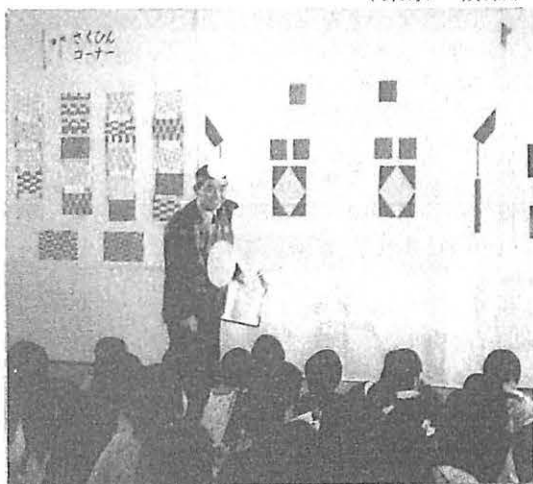
全体会において研究主題等の報告があり、次に、はげみ学習、研究授業があり、その後、低・中・高分科会がもたれた。研究の内容では、はげみ学習・教科研究・集団学習・やってみタイムが紹介されました。

授業は、低学年では、算・生・図の合科的活動を中心に、中・高学年では、自由進捗、順序選択の学習や算・図を平行して展開する事例が提案されました。どの授業も、一人一人の子どもの充実した学習が、オープンスペースのよさを生かして進められており、これまでの授業研究の積み上げが感じられました。

参観した1年生の「いろいろな形をつかって遊ぼう」では、3人の教師が、それぞれ、「まつ〇先生」「やくそく△」「どうぐ□子」という役割を演じながら支援を行っていました。「形ランドヘレッツゴー!」と元気に学習が始まり、子どもが、「形ランドパスポート」を手に13のコーナーを楽しみながら選んで進める学習が展開されました。終始、子どもの意識に迫る力強い授業であったと感じました。

分科会では、13のコーナーの是非や子どもの学習への主体的な取り組み等について活発に協議が行われました。

(東京・板東)



1年「いろいろな形をつかってあそぼう」

千葉県白井町立桜台小学校

1月30日(火)

誇らしげに頬を紅潮させて物語る1年生の姿。すったもんだしながらも友達の意見を取り入れながら、文化センター見学コースをつくった2年生。どれもが明るく生き生きと「自分なりの世界」を大切にしていました。

フロア一面に置かれている昔の道具や雪国の生活道具を前に、たくさんのつぶやきが生まれ、学習の輪が自然にできていた中学年スペース。そこには、子どもも教師も参観者もない、まさしく、誰が生徒か先生かの世界でした。私自身も一緒に石臼をひき、積雪の重さを体験させてもらいました。オープン教育ならではの自由さでした。

「植林の仕方を知っていますか。」自分の思いを何とか伝えようとしていた5年生の発表に思わず聞き入りました。その後ろには、「自然教室」でお世話になった埼玉の森林組合の職員さん持参の檜がフロア一狭しとならんでいました。木肌から子どもたちは、自然の持つ力を感じ取っていることでしょう。

明るい笑い声につられて入った6年スペース。そこには、子どもたちの疑問に全身で答えがださっている外国人ボランティアの方の姿がありました。その真摯な姿に子どもたちは国を越えた人との交流の手応えをつかんでいるようでした。

開校2年目にして全学年TTによる個性化教育研究会を開かれた桜台小。学習主体としての子どもをどう支援していくのか。先生方の目は常に暖かく子どもたちにそそがれつつ、より豊かな教育を目指していました。この学校に脈打っているのは、まさしく学習形態をこえた、全職員、地域の人々による、全校TT精神でした。

(加藤久美子)

愛知県卯ノ里小学校

2月2日(金)

卯ノ里小の実践研究会は、小雪の舞い散る中での開催になりました。しかし、そんな天候とは裏腹に、研究会は主体的に学ぶ子ども達と、

参観者と卯ノ里小職員の活発な話し合いで、熱気にあふれていました。

卯ノ里小では「主体的に学習する子」をめざして、研究内容の中心を「問題解決の力を育成させること」「基礎的・基本的な内容を習得させること」にしています。

問題解決の力は、教科学習の「問題解決学習」「仲良し学習」「集団活動」「自由活動」で培っていますが、学習の内容と同時にプロセスを学ぶことを重視しています。オープン教育は、とかく施設・環境や学習形態の改革が目がいきがちでしたが、子どもの学びの姿を見つめ直している点がすばらしいと感じました。今回は、教師の動機づけ・問題把握の段階をを大切にしたい授業が多くありました。子どもの学習に対する意欲や必要感は、自己決定の積み重ねによって高められていくことでしょう。集団活動と同じように、子ども自らによる意志決定を位置づけていってほしい物です。

一方、基礎的・基本的内容の習得は、「一人学び」の形態を重視して、教師はT・Tによって指導の充実を図っていました。学習環境や学習プリントが、子ども一人ひとりに応じて、よく整えられていました。特に、多くの教師の子ども思いに合わせた個別支援は、支援とはどうあるべきかを示唆するものでした。

(齋藤公俊)



ラーニングセンターでの個別学習

事務局だより

箱根宿泊研修会報告

平成7年12月26日(火), 27日(水)

於 箱根湯本ホテル

昨年度に引き続き、本年度も各プロジェクト推進のためのまとまった時間をとろうということで、事務局のメンバーを中心に箱根において宿泊研修会を開きました。

当日は、事務局のメンバーに加え、長崎、青森、静岡からの会員を迎えて約30名ほどが出席しました。また、今回は、前回出席されなかった加藤幸次先生と高浦勝義先生、浅沼茂先生も参加され、会も非常に盛り上がりました。

初日には、神奈川の国府小学校での週プロの実践の話から、緒川小学校での実践も参考にしながらの意見交換、そして、高浦先生からの各研究者が主張する「個性」と「教育」論を提示してのお話がありました。翌日には、プロジェクトチームの中の「追跡」班における追跡調査に関する討議を行いました。また、夜にはお約束のアルコールを交えての熱談(!?)もあり、二日間の日程を終えました。

(中田泰志)

会費値上げのお願い

郵便料金が値上げされてからしばらくたちました。今まで、会員のみなさまには情報の提供を少なくすることなく、年4回の会報と1回の会誌と会員名簿の郵送を続けてまいりましたがここに來まして、これを続けることが困難な財政事情になってまいりました。事務局といたしましては、みなさまへの郵送の回数を減らすことは考えたくありません。

やむをえず、個人会費を3000円から4000円に、団体会費を5000円から7000円に値上げさせて頂きたくお願い申し上げます。

5月末の会誌発送の折、振込用紙を同封いたしますので、ご協力をよろしく願いいたします。

<事務局への問い合わせ・連絡先>

〒115 東京都北区赤羽南1-16-2-504
03-3903-4780 庶務部長 佐久間茂和

会誌10号のお知らせ

全国個性化教育連盟では、昭和62年より「個性を育てる」を刊行してきました。おかげさまで、今回第10号を迎えました。

会誌10号では、物的・人的・地域を含めた広い意味での「学習環境」をテーマに取り上げました。5月中旬に会員のみなさまに配布すべく、三浦編集部長を中心に編集の真っ最中です。

巻頭言は、本連盟会長の染田屋謙相先生です。論文は、「学習環境の創造」をテーマに小堀常子先生、上野淳先生、加藤幸次先生、高浦勝義先生、永地正直先生、奈須正裕先生、小山敏男先生などです。ご期待ください。

会誌「個性を育てる」バックナンバーのご紹介

- ・1号テーマ「こんな授業を創ってみました」
巻頭言 染田谷謙相「個性の伸長」
- ・2号テーマ「こんな授業を創ってみました」
巻頭言 高木省三「活性化を図ろう」
- ・3号テーマ「こんな授業を創ってみました」
巻頭言 三原英雄「個別化・個性化教育の推進に寄せて」
- ・4号テーマ「こんな生活科を創ってみました」
巻頭言 染田谷謙相「個性を生かす教育」
- ・5号テーマ「こんなコンピュータの活用を創ってみました」
巻頭言 前崎敏雄「期待される個性尊重の教育」
- ・6号 個性化教育ガイドブック
- ・7号テーマ「こんな総合学習を創ってみました」
巻頭言 永地正直「日本型オープン創造」
- ・8号テーマ「こんなTTを創ってみました」
巻頭言 染田谷謙相「TTの第2の波」
- ・9号テーマ「個性の捉え方」
巻頭言 加藤幸次「カリキュラム時代の到来に」

幾らか在庫もございますので、事務局までご連絡ください。

全国個性化教育研究連盟会報 第36号

平成8年3月30日発行

編集責任者 事務局長 高浦勝義
編集 広報部 館岡茂樹